

# 喘息

## について

## 1 喘息の病態

喘息で最初に起こる病態は、「気管支の炎症」です。喘息の患者さんでは、気管支が炎症を起こして敏感になっているため、健康な人では感じない少しの刺激でもすぐに感じて、発作を起こします。これは、炎症を起こす細胞（白血球）から出る物質に敏感になっていたり、また気管支の上皮細胞がはがれ、刺激を感じる神経がむき出しになっているからです。

## 2 喘息の重症度

喘息の重症度は、どの程度の発作がどのくらいの頻度で起こったかで判断します。喘息日記をつけて、自分の発作が軽症か重症か、それとも中等症なのかを判断して下さい。

### 軽症とは…

喘鳴だけあるいは小発作（苦しいが横になれる）が、週に1～2回起こるものです。ただし、胸苦しさや喘鳴（ゼーゼー／ヒューヒュー急ぐと苦しい）だけの場合は、週に3～4回でも軽症とします。

### 中等症とは…

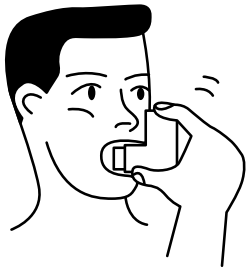
軽症と重症の中間の広い範囲のものです。慢性的に症状があり、週に1～2回の中発作（苦しくて横になれない）が起こって、ときどき日常生活や睡眠が妨げられます。

### 重症とは…

中発作や大発作（苦しくて動けない）が頻発して、日常生活がほとんどできない場合です。症状が続き、治療を行っていても悪化することがあります。



## 3 喘息の治療薬



喘息の治療に用いられる薬剤は、ステロイド薬、抗アレルギー薬、気管支拡張薬(β刺激薬、テオフィリン薬)、抗コリン薬です。使い方には、内服と吸入、そして注射がありますが、最近では吸入療法が見直されてきています。正しく吸入すれば、内服するよりも少ない量の薬で同じ効果が速く出るからです。少ない量ですむため、副作用が少ないことも利点です。

喘息の発作は苦しいものです。患者さん本人はもちろんのこと、まわりの家族の方も側で見ている「何とか楽にしてあげたい」と、つらい思いをなさることでしょう。しかし喘息は、正しい知識のもとに、正しい治療がきちんと行われれば、多くの場合コントロールできます。患者さん本人が「自分の喘息は自分で管理する」という強い心構えをもって、一生懸命に治療にあたる必要があります。